

流 転

～島崎藤村『草枕詩碑』～

名掛丁東名会 梅津恵一

島崎藤村の記念碑は藤村記念館の資料によると全国に70基（文学碑42基、記念碑28基）もあるという。その中で生前に建立された文学碑はわずかに4基しかない。小諸懐古園の詩碑（昭和2年）、群馬県下仁田の詩碑（昭和6年）、仙台の草枕詩碑（昭和11年）、明治学院の校歌碑（昭和12年）である。いずれも藤村の直筆の詩碑であるが、死後に建立された藤村の直筆の詩碑も数多くある。ただそこには決定的な違いがある。生前のものは藤村の意思でその場にふさわしい碑文を選んで書いた直筆の碑であるが、死後の碑は建立した人々の藤村への想いで選んだ直筆の碑で、藤村の直接の関与は薄い。このような文学的価値のある貴重な藤村の草枕詩碑が名掛丁藤村広場にある。しかしこの碑がこの地に治まるまでには多くの歳月と多くの人びとの想いがあった。

昭和11年7月、土居光知東北大学教授はアルゼンチンで開催される国際ペンクラブ大会に日本代表として出席するために神戸港から出港する直前の藤村を旅館に尋ね、『草枕』の書を頂戴した。それをもとに「八木山に草枕詩碑」が建てられた。本来は宮城野原を希望したが、軍用地であったので断念して八木山に建てられたのだ。藤村は外遊中のため除幕式には出席できなかったが、翌12年6月、夫妻でこの碑の前に立ち、感激のあまり涙したといわれている。仙台を離れて実に40年ぶりの来仙であった。

戦後になると市民の碑への関心は薄れ、碑は草に埋もれてしまった。昭和30年代に、これを憂いた東北文芸協会や宮城野中学校関係者らが中心となって、県有地となった宮城野原に移設を試みたが、実現には至らなかった。

昭和42年には八木山動物公園の拡張工事によって、入場料を払わないと碑が見られなくなってしまったので、土井晩翠の碑がある仙台城址天守台に移設した。しかし移設した場所が問題をひき起こした。

山室静（文芸評論家）は「島崎藤村文学紀行」（現代日本文学アルバム3 島崎藤村）でこのように述べている。

～土井晩翠の碑はほぼ中央に立派なのが立っているのに、藤村の碑は運転手も所在が分からず、やっと探し当てると城址の一番隅の茶店の陰にションボリと立っていた。これは藤村に対しての虐待である。藤村が仙台にいたのはほんの一年だけだが、「若菜集」の詩のほとんど全部を仙台で書いた。仙台は藤村自身の曙を迎えただけでなく、日本近代詩の黎明を告げた記念すべき詩集の誕生の地だ。だからこそ土居光知さんなども加わってこの詩碑建設となったのだが、その先人たちの精神を今では仙台人は失ってしまった。～

大部要約して書いたが、全く耳の痛い指摘であった。後でわかったことだが移転の場所の選定は、私の恩師（県文化財保護課勤務）が関わり、「藤村が最初に下宿した支倉、宮城野そして荒浜が全部見える場所を探すとあの場所になった。決して藤村を虐待したわけではない」と教えてくれた。しかしその由縁を知る人は少なく、藤村を愛する人たちにとっては誠に評判の悪い「仙台城址の草枕詩碑」となってしまった。

ところが平成15年に宮城県北部地震が発生し、仙台城址は大変な被害を受けた。その復興を巡り仙台市は資金の面から「仙台城址国史跡指定」を甘受した。そのため、仙台藩と関係のない藤村の詩碑は、この場所では悲しいことに無用の長物となってしまったのだ。

そんな折、仙台城址の草枕詩碑を「名掛丁藤村広場へ移設」する話が名掛丁東名会に寄せられた。当町内会では平成16年に藤村がかつて下宿した跡地を、仙台市や各方面の協力を得て、名掛丁藤村広場と命名し、そこに「日本近代詩発祥の地」の記念碑を建立した。これは「藤村ゆかりの地に記念碑を建立したい」という、藤村関係者の長年の悲願の達成であった。そこで移設の話をご関係者に再度相談すると、皆受け入れに賛成であった。平成19年9月2日、移設に伴って「草枕詩碑 里帰り歓迎式」が開催された。式典には藤村記念館鈴木昭一館長並びに仙台市長の出席を賜り、また藤村と故郷を共にする宮城長野県人会や地元の榴岡小学校の協力を得て、盛大に執り行われた。

土居光知先生が藤村に会って仙台のゆかりの地に藤村詩碑建立をもくろんで以来、苦節70年の時を経て、ようやく「藤村広場が草枕詩碑の安住の地」となった。

【参考文献】（梅津氏所蔵）

『島崎藤村の文学碑』

藤村記念館 2004年発行

【関連資料】

『現代日本文学アルバム3 島崎藤村』学研 1978.9.10 シマ

『新潮日本文学アルバム4 島崎藤村』新潮社 1984.8.9.10 シマ

『若き日の藤村』藤一也／著 本の森 1998.11.9.10 シ

『島崎藤村』藤村記念館／編集 藤村記念館 2000.2.9.10 シマ

『若菜集』島崎藤村／著 日本図書センター 2002.12.9.11.5 シ

『初恋 声にだすことばえほん』島崎藤村／詩 ほるぷ出版 2009.10.8.10



↑ 「名掛丁藤村広場」全景

← 「草枕詩碑」

（撮影：梅津恵一氏）



『若菜集』島崎藤村／著

1902 春陽堂（梅津恵一氏所蔵）

